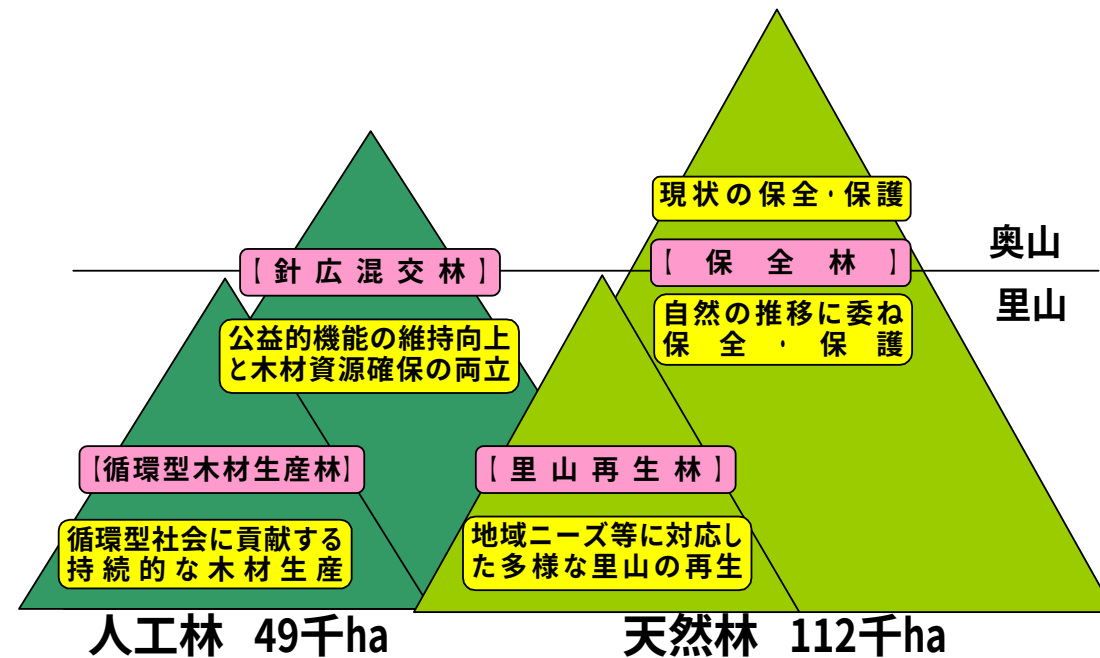


とやま水と緑の森づくりの基本指針と推進体制

とやま水と緑の森づくりの基本指針のポイント



林型	立地	現状と課題	森林の保全整備の基本指針（とやまの森の目指す姿）
天然林 112千ha	里山	- 薪炭林の放棄により森林が変化 - 明るい林を生息環境とする動植物の減少が懸念。 - クマの生息範囲が里山まで拡大。 - 放置竹林が拡大している。 - 里山二次林の多くは安定方向にある。 - 里山の再生には継続的な整備を続けることが必要。 - 地域のニーズや森林の状態に応じた、多様な森づくりが必要。	【里山再生林】 集落周辺の里山二次林では、地域のニーズや森林の状態に応じた、多様な里山の再生を目指す。
	奥山	- 豊かな自然林となっている。 - 自然環境や野生動物の生息環境としても優れ、水土保全機能も高い - 適切に保全・保護することが必要。	【保全林】 継続的な手入れのできない、大部分の里山二次林や自然豊かな奥山天然林では、水土保全機能の持続的な発揮に加え、多種多様な生物の生息環境として保全・保護することを原則とし、自然の推移による安定段階の天然林を目指す。
人工林 49千ha	里山	- 間伐が行われないなど手入れ不足の森林が発生。 - 手入れ不足森林では、公益的機能が低下、気象害も受けやすい。 - 循環型社会の構築には、持続的な木材生産は不可欠。 - 若齢段階における適切な間伐の実施、長伐期施業や択伐施業への移行、土地本来の広葉樹などの混在により、公益的機能を確保しつつ、木材生産との両立を目指すことが必要。	【循環型木材生産林】 低コストで効率的な施業が可能な場所では、公益的機能を確保しつつ、持続的な木材生産を目指す。 公益的機能の発揮が特に求められる場所では、公益的機能を維持・向上させつつ持続的な木材生産との両立を目指す。
	奥山	- 植栽したスギの成長が悪く採算が合わない。 - ブナなどの広葉樹が自然侵入している場所も見受けられ、これらとの混在により、公益的機能を確保しつつ、木材生産との両立を目指すことが必要。	【針広混交林】 林業経営による手入れが困難な人工林や、風雪害を受けた人工林では、広葉樹の侵入を促進するなどして、より自然林に近い状態に誘導することで、管理に手間をかけずに、公益的機能の維持・向上と長期的な木材資源の確保との両立を目指す。

とやま水と緑の森づくりの推進体制のポイント

